

<主題講演> ACP（人生会議）

関東部会・大学教員 冲永隆子

「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。

種入れをかかえ、泣きながら出て行く者は、束をかかえ、喜び叫びながら帰って来る」

（詩篇 126:5-6）

2016年にJCMA会員の影山隆之先生より「医学と福音」を贈呈いただいたことが直接のきっかけで入会しました。また、入会前より臨床倫理教育セミナー等で大変お世話になった、故白浜雅司先生が本会員だったことも大きく影響しています。白浜先生がセミナー講演のさいごにいつも「ニーバー（牧師）の祈り」を紹介されていたのが印象的でした。

「神よ、変えることのできないものを静穏に受け入れる力を与えてください。変えるべきものを変える勇気を、そして、変えられないものと変えるべきものを区別する賢さを与えてください」は、人生の躓きを覚えるごとに、私の心に響きました。逆境や困難の度合いによって乗り越えられるかどうか、静かに祈りの時をもちつつ、意思決定する、行動指針となりました。その「ニーバーの祈り」は「一日一日を生き、この時をつねに喜びをもって受け入れ、困難は平穏への道として受け入れさせてください。これまでの私の考え方を捨て、イエス・キリストがされたように、この罪深い世界をそのままに受け入れさせてください」と続きます。

冒頭の詩篇 126 章 5-6 節は、私の入信のきっかけとなった苦境のときに、影山先生の知人の牧師先生が贈ってくださった救いの聖句で、難産の拙書『終末期の意思決定—コロナ禍の人生会議に向けて』の文頭（2 頁）に掲載しています。ここで私事の証は控えますが、端的には、困難な時を経たからこそ今が至福、平安・平穏の道が用意されていたのだと実感します。辛い出来事の一つに、2006 年 6 月 15 日に 64 歳で他界した実父との死別経験があります。拙書に、ACP と向き合えずにいた私の、実父の看取りへの後悔があり、本人の「意思確認」の必要性から ACP 研究へのきっかけについて詳述しています（5-6 頁）。「医学と福音」Vol.7（3）2023「ACP への思い」にも、その父の話があり、終末期医療の研究者であると同時に、手術不能の末期がん患者であった共同研究者の入澤仁美氏との ACP 研究についても、入会から 7 年経った 2023 年 8 月の JCMA 総会講演で報告します。

主題講演では、2021 年 5 月 8 日の JCMA 関東部会で私と共同発表・ゲストであった入澤氏のご遺志に叶うこととして、「コロナ禍の ACP」をめぐる、皆様との自由な語らいの場となりましたら幸いです。